

第5号 稲作管理特報

令和5年6月2日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

今年の稲の生育は、平年並みに進んでいますが、徒長気味で茎数はやや少なめとなっています。

米の品質を高めるには「根づくり」が重要です。適期の中干し開始と中干し後の**間断かん水**で「根づくり」を行いましょう。

【コシヒカリの生育状況】

年次	田植日	5月30日			
		草丈 cm	茎数 本/株	本/m ²	葉齢 葉色
R5	5/12	27.9	5.5	113.7	5.4 3.9
平年	5/11	26.0	6.1	126.1	5.4 4.0

1 「中干し」の実施と「中干し」以降の水管理

中干しは、田植え後4週間頃を目安に開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょう。中干しの開始が遅れると根の伸長が不十分となり、米の品質低下につながります。

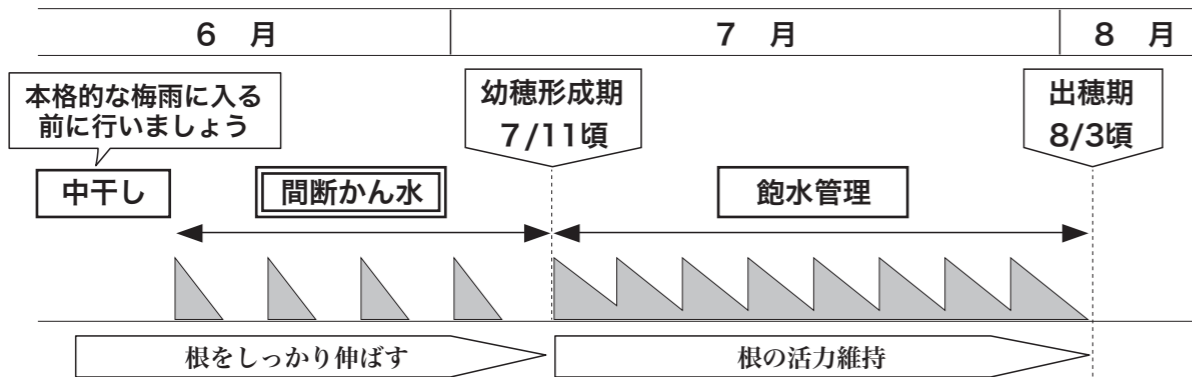
中干しは小さなひび割れが入り、長ぐつ跡がつく程度まで干しましょう。

中干し後、幼穂形成期までは1日湛水、2～3日落水の「**間断かん水**」で、根に酸素を与え、伸長を促しましょう。（※目安は足跡の深さ3cm以内に地固め）



【中干し】

【水管理のイメージ図（コシヒカリ）】

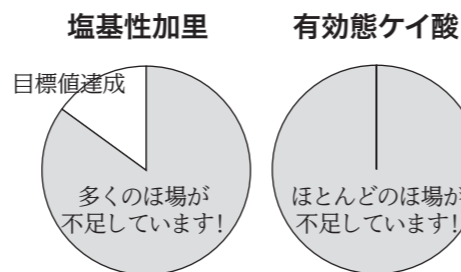


※「飽水管理」(足跡に水が残る程度の状態になったら入水する、稲が水分不足にならない水管理)

2 「エスアイ加里らくだ」の施用

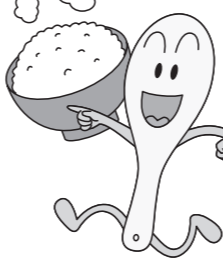
管内の水田土壌では、多くのほ場で「カリ」が不足し、「ケイ酸」はほとんどのほ場で不足しています。稲の受光体勢を改善し、下葉の枯れあがりを防ぐために、「エスアイ加里らくだ」を積極的に施用しましょう。

施用時期: 6月20～25日頃 施用量: 15kg/10a



令和4年11月に実施した JAみな穂管内土壌調査結果

「**間断かん水**」と「**飽水管理**」で、夏の高温に負けない**根づくり**を!



3 中・後期除草剤の散布

中干し後に雑草の発生が多い場合は、草種と葉齢に合わせて、遅れずに除草剤を散布しましょう。

対象雑草	農薬名	散布時期	10a当たり散布量	成分数	使用回数
ノビエ	トドメMF1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg	1成分	3回以内
ノビエ・広葉雑草	アクシズMX1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後7日～ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	1kg	3成分	1回
	レプラスジャンボ (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	バック10個 (400g)	4成分	1回
広葉雑草	フォローアップ1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後15日～ノビエ5葉期 (イネ4葉期以降) (収穫60日前まで)	1kg	2成分	1回
	※バサグラン粒剤 (落水して散布)	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	1成分	1回

※バサグラン粒剤は、2日以上晴れ間が続く日を選んで散布し、散布後3～4日は入水しないでください。また、雑草が局所的に多発生している場合は、その部分へのスポット処理ができます。

4 カメムシの発生防止

斑点米カメムシ類の住みかとなる**雑草地や畦畔の草刈り**を徹底しましょう

～草刈り作業時の留意点～

例年、草刈り作業時における農作業事故が多発しています。雑草地や傾斜地等で作業を行う際は、周囲の安全を確認し、怪我や転倒などに注意してください。



多発する事故の例	対処方法
刈り刃への接触・巻き込まれによる事故	ヘルメット、ゴーグル・フェイスガード、すねあてなどの防護の徹底と飛散物カバーを外さないようにしましょう。
飛散物による事故	
キックバックによる事故	
刈刃に草などが詰まった際の事故	確実にエンジンを切って取り除きましょう。

※熱中症対策として、こまめに休憩を取り、水分補給を行いましょう。

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

主な情報提供内容

- ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・ 気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

